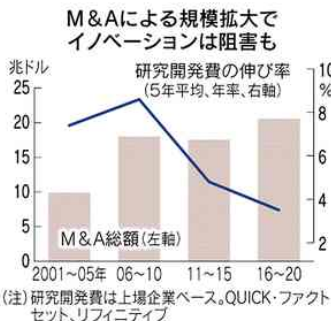
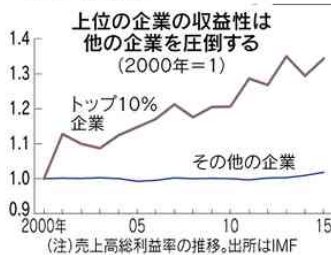


成長の未来図

▶ 5

寡占が奪うダイナミズム

検索で特殊技術を持ち、力が衰えていることだ。プレヤーの数が減る結果、国際通貨基金（IMF）の分析は巨大企業がますます富み、その他の企業が「多弱」に陥る傾向を裏付ける。2000年以降と試算する。



新興の芽を摘む

競争こそが野心の源泉

「この買収でソーシャルメディア・プラットフォームの競争は損なわれ、潜在的な挑戦者が消し去られてしまう」。英国の競争・市場庁（CMA）は2021年11月末、米メタ（旧フェイスブック）による米画像共有サービス大手ジフィーの買収に待ったをかけた。ジフィーは広告や画像

降、世界のトップ10%の企業はM&A（合併・買収）を重ねて右肩上がりの中期的に成長を妨げ、圧ベーションを抑制する」と警告。QUICK・ファクトセットとリフィニティブのデータでも世界的なM&A総額が増加傾向にある中、研究開発費の

伸び率は06~10年の年平均均8.6%から16~20年に3.5%へ下がった。GAF Aを抱える米国であるカーン氏は「次世代のトラストバスター」も危機感を強める。バイデン大統領は「競争のない資本主義は資本主義ではない。資本主義は資本主義でなければならない。搾取だ」と主張勢を鮮明にする。GAF Aのような突出

した企業を生んでいない日本でも寡占は着実に進んできた。東大の大橋弘一教授らの製造業の推計によれば、自動車や製薬など各産業の上位4社の売上高が全体に占める割合は01年の39%から16年に44%まで上昇した。日本企業は1990年代のバブル経済崩壊以後、3つの過剰（債務・設備・雇用）に見舞われた。追っ構図に変わった。

これを解消する過程で企業は再編され、寡占の傾向が強まった。競争の緊張感が薄れイノベーションを生む力は衰えた。M M総研（東京・港）によると10年度の国内携帯電話市場では10社以上がしのぎを削り、シャープや富士通、パナソニック、NEC、京セラなどに米アップルや韓国サムスンなど海外勢が挑む構図だった。20年度になると上位5社で出荷台数の約8割を占めるまで集約され、5割近くを握るアップルをシャープ、サムソン、富士通、ソニーが作り直せなければ成長の未来は見えてこない。

競争が減ることで投資は細る。経済協力開発機構（OECD）などによると00年から19年までの日本の研究開発費の伸びは30%にとどまり、中国の13倍や米欧の7割増と比べ大きく見劣りする。「アニマル・スピリッツ（野心）が失われると資本主義は衰退する」。

競争がなくなることで投資は細る。経済協力開発機構（OECD）などによると00年から19年までの日本の研究開発費の伸びは30%にとどまり、中国の13倍や米欧の7割増と比べ大きく見劣りする。「アニマル・スピリッツ（野心）が失われると資本主義は衰退する」。